

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進		
施策	③ 本県の特性に応じた温暖化防止対策の推進			
主な取組	造林事業	実施計画 記載頁	34	
対応する 主な課題	本県は亜熱帯性気候に属し、また地理的・地形的条件が他都道府県と異なるため、地球温暖化による影響を独自に予測・分析し、それに合った適応策を検討する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	木材生産及び水土保全等、森林の持つ公益的機能の高度発揮のため、民有林において人工造林、樹下植栽及び保育等の森林整備を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	40ha 造林等面積				→	→	県 市町村
	無立木地への造林や複層林整備の実施						
担当部課	農林水産部 森林緑地課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
造林緑化対策費	619,526 <small>(繰越11,132)</small>	309,964 <small>(繰越10,939)</small>	人工造林、樹下植栽、下刈り及び除伐等の実施 【一括交付金ハード、内閣府計上】	再掲 3-(7)- カ 246頁
活動指標名			計画値	実績値
造林等面積			40ha	34ha
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	水源涵養機能や土砂流出機能等、森林の持つ公益的機能の発揮が見込まれる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
造林緑化対策費	662,959 <small>(繰越301,613)</small>	人工造林、樹下植栽、下刈り及び除伐等の実施 【一括交付金ハード、内閣府計上】	-

(3) これまでの改善案の反映状況

事業主体によっては、土地所有者との調整遅れ等の理由から当初計画事業量を実施できない場合があるため、早期の調整を指導した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
-	-	-	-	-	-
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
造林面積	4,906ha (H22)	4,948 (H23)	4,982ha (H24)	→	-
造林面積 (過去5年毎の推移)	403ha (H8~H12)	250ha (H13~ H17)	227ha (H18~ H22)	↘	-
状況説明	造林面積について、実績は契約よりやや遅れているが、市町村の新植及び樹下植栽の要望は昨年度と比べ増加する見込みである。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境など)

○造林事業については、自然環境保護団体から森林伐採の中止を求める要請に伴い、伐採区域の変更、伐採面積の制限により、関係機関との調整に時間を要し、造林整備にやや遅れが生じた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

○事業主体の要望する樹種について、その造林目的や生育状況等を検証した上で、造林樹種として適当であれば、「その他知事が認める樹種」として事業実施できるよう対応したい。

4 取組の改善案(Action)

○造林事業について、『やんばる型森林業の推進』により、森林地域ゾーニング区分を公表し、関係機関、団体等と綿密に調整するとともに、環境に配慮した森林施業を計画的に推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進		
施策	③本県の特성에応じた温暖化防止対策の推進			
主な取組	全島みどりと花いっぱい運動事業	実施計画 記載頁	34	
対応する 主な課題	本県は亜熱帯性気候に属し、また地理的・地形的条件が他都道府県と異なるため、地球温暖化による影響を独自に予測・分析し、それにあつた適応策を検討する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	住民を巻き込んだ積極的な緑化活動が必要であり、「緑を創る」ことに加え、保育管理について、効果的な補助制度と普及啓発等をおして、民間への浸透を図ることとする。また、県花であるデイゴの害虫であるデイゴヒメコバチを防除するため薬剤樹幹注入等を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	行政、団体、企業等との協		新たな事業による緑化活動の展開			→	県 市町村等
担当部課	農林水産部森林緑地課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
全島みどりと花いっぱい運動事業	15,163	9,835	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県全島緑化県民運動推進会議、地域推進リーダー会議 ・薬剤樹幹注入、緑化木育種改良、低コスト防除技術開発 ・CO2吸収認証制度の創出 ・企業との協働による花の名所づくり ・花のゆりかごプロジェクト ・うまんちゅ協働花と緑の美ら島づくり 【県単等】 	再掲 1-(3)-ウ 41頁 1-(6)-イ 65頁
活動指標名			計画値	実績値
県民による緑化活動件数			—	94件
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	観光立県としてふさわしい花と緑いっぱいの地域づくりを支援するため、学校(保・小・中・高校・特別支援)、自治会、県、市町村など地域住民や団体等との協働による緑化活動の推進を図ることができた。さらに、第32回全国豊かな海づくり大会において本島内の3農林高等学校の生徒が会場緑化に取り組んだ。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
全島みどりと花いっぱい運動事業	10,000	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県全島緑化県民運動推進会議、地域推進リーダー会議 ・企業との協働による花の名所づくり ・花のゆりかごプロジェクト ・うまんちゅ協働花と緑の美ら島づくり 【県単等】 	—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

「一島一森」で花と緑の美ら島づくりをスローガンに、平成20年度から県民一体となった緑化活動(主に植樹)に取り組んでいる。緑化事業は、長期的な取り組みが必要であることから、植樹だけでなく、育樹活動の推進、企業等による緑化活動の意識の高揚を図る等、今後も継続的な事業実施が必要である。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
-	-	-	-	-	-
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
県民による緑化活動件数	53件 (22年)	55件 (23年)	68件 (24年)	↗	—
沖縄県植樹祭 参加者数	豊見城市 約700名 (22年)	大宜味村 約500名 (23年)	与那原町 約600名 (24年)	→	全国植樹祭 約12600名 (24年)
状況説明	沖縄県植樹祭は、県土緑化の重要性を普及啓発するため、緑化推進運動の中心行事として、昭和26年から毎年開催している。植樹祭は、式典と参加者全員による苗木の植樹作業を行っている。 主な参加者／県・市町村議会議員、教育委員会、職員、開催地元の小・中学校、商工会、自治会、企業、町民、その他関係団体				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境など)

本事業については、平成25年度までの事業であるため長期的かつ継続的な取り組みが見込めないが、自主活動による学校緑化及び地域緑化と併せ、地域住民の交流促進や地域振興に役立っている等、県民からの継続の要望が強い。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

全島的な民間主導型の緑化活動を喚起し、県民に潤いと安らぎのある生活を提供するだけでなく、将来的に種苗生産者への経済効果、観光振興を下支えする環境づくりが必要である。

4 取組の改善案(Action)

本事業については、長期的な取組を行う必要があるため、学校や地域、企業等が自主的な緑化活動に取り組めるよう民間コンサルタントを活用した緑化人材育成等を推進し、事業実施後の継続的かつ全島的な緑化活動を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進		
施策	③ 本県の実情に応じた温暖化防止対策の推進			
主な取組	県民の森の管理事業費	実施計画 記載頁	35	
対応する 主な課題	本県は亜熱帯性気候に属し、また地理的・地形的条件が他都道府県と異なるため、地球温暖化による影響を独自に予測・分析し、それに合った適応策を検討する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県民の森公園内の緑化等の施設整備及び維持管理を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	県民の森公園の施設の整備、維持管理、利用促進					→	県
担当部課	農林水産部森林緑地課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
県民の森管理事業費	1,701	1,451	県内では希な桜の品種のクメノサクラ等を植栽し、花の名所づくりに取り組んだ。【県単等】	再掲 1-(6)-イ 66頁
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
■順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	花の名所づくりの一環として取り組んできた公園内の樹木や花などの緑化を行うことに伴い、二酸化炭素吸収源対策に繋がった。また、利用者数も増加傾向にある。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
県民の森管理事業費	348	県民の森公園内の緑化活動及び利用者拡大に向けての広報活動等を行うとともに施設の適切な管理を行う。【県単等】	-

(3) これまでの改善案の反映状況

公園内の見所づくりの強化のため、クメノサクラの植栽等に加えて民間企業等による緑化活動への参加について募集等を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
民生家庭部門における二酸化炭素排出量	297万t -CO2 (H20年)	305.4万t -CO2 (H22年)	250万t- CO2	8.4万t	189百万t (H23年)
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
県民の森公園の樹木による二酸化炭素固定量(推計)	8,546.15t (H22)	8,546.78t (H23)	8,547.41t (H24)	↗	—
状況説明	二酸化炭素排出量の削減については、公園内の樹木や花等の植栽や保育などの適切な管理等が必要である。県民の森において、イオン琉球などの民間企業とクメノサクラ等の植樹や草花の植栽に取り組んでいる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

県民の森公園の利用促進のための緑化活動、施設整備等及び広報活動について、検討が必要である。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・緑化活動により、公園を活性化し、利用者数の増を図る必要がある。
- ・広報活動を行い利用者数の増を図る必要がある。
- ・指定管理者の自主事業による利用者数の増を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・県民からの寄付による緑化活動により、公園を活性化し、利用者数の増を目指す。
- ・学校等へ広報活動を行い利用者数の増を目指す。
- ・指定管理者の自主事業による利用者数の増を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進		
施策	③ 本県の特性に応じた温暖化防止対策の推進			
主な取組	森林公園管理事業費	実施計画 記載頁	35	
対応する 主な課題	本県は亜熱帯性気候に属し、また地理的・地形的条件が他都道府県と異なるため、地球温暖化による影響を独自に予測・分析し、それに合った適応策を検討する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	平和創造の森公園内の緑化等の施設整備及び維持管理						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	平和創造の森公園の施設の整備、維持管理、利用促進					→	県
担当部課	農林水産部森林緑地課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
森林公園管理事業費	3,004	2,422	公園内の見所づくりのための草花等の植栽及び公園安全管理のための管理棟屋根瓦の修繕【県単等】	再掲 1-(6)-イ 66頁
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	公園内の見所づくりの一環として取り組んできた公園内の樹木や花などの緑化を行うことに伴い、二酸化炭素吸収源対策に繋がった。また、利用者数も増加傾向にある。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
森林公園管理事業費	1,443	○公園内の緑化活動及び利用者拡大に向けての広報活動等を行う。 ○平和創造の森公園の多目的広場休憩所の瓦修繕を行う。 【県単等】	再掲 1-(6)-イ 66頁

(3) これまでの改善案の反映状況

公園内の見所づくりの強化のため、草花の植栽等に加えて民間企業等による緑化活動への参加について募集等を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
民生家庭部門における二酸化炭素排出量	297万t -CO2 (H20年)	305.4万t -CO2 (H22年)	250万t- CO2	8.4万t	189百万t (H23年)
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
平和創造の森公園の樹木による二酸化炭素固定量	42.0t (H22)	42.5t (H23)	43.0t (H24)	↗	—
状況説明	二酸化炭素排出量の削減については、より一層の平和創造の森の利用促進のための緑化等の施設整備及び維持管理が必要。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境など)

平和創造の森公園の利用促進のための緑化等の施設整備、維持管理及び広報活動について、検討が必要である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・緑化活動により、公園を活性化し、利用者数の増を図る必要がある。
- ・広報活動を行い利用者数の増を図る必要がある。
- ・指定管理者の自主事業による利用者数の増を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・県民からの寄付による緑化活動により、公園を活性化し、利用者数の増を目指す。
- ・学校等へ広報活動を行い利用者数の増を目指す。
- ・指定管理者の自主事業による利用者数の増を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ウ	低炭素都市づくりの推進		
施策	③ 都市と自然の共生			
主な取組	全島みどりと花いっぱい運動事業	実施計画 記載頁	41	
対応する 主な課題	沖縄本島中南部都市圏における都市化と開発整備に伴い、温室効果ガスの吸収源となる森林や緑地の存在量が不足していることから、都市と自然が調和した効率的、効果的な都市構造の形成を図る必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	住民を巻き込んだ積極的な緑化活動が必要であり、「緑を創る」ことに加え、保育管理について、効果的な補助制度と普及啓発等とおして、民間への浸透を図ることとする。また、県花であるデイゴの害虫であるデイゴヒメコバチを防除するため薬剤樹幹注入等を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	行政、団体、企業等との協		新たな事業による緑化活動の展開			→	県 市町村等
担当部課	農林水産部森林緑地課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
全島みどりと花いっぱい運動事業	15,163	9,835	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県全島緑化県民運動推進会議、地域推進リーダー会議 ・薬剤樹幹注入、緑化木育種改良、低コスト防除技術開発 ・CO2吸収認証制度の創出 ・企業との協働による花の名所づくり ・花のゆりかごプロジェクト ・うまんちゅ協働花と緑の美ら島づくり【県単等】 	再掲 1-(3)-ア 34頁 1-(6)-イ 65頁
活動指標名			計画値	実績値
県民による緑化活動件数			—	94件
推進状況	取組の効果			
■順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	観光立県としてふさわしい花と緑いっぱいの地域づくりを支援するため、学校(保・小・中・高校・特別支援)、自治会、県、市町村など地域住民や団体等との協働による緑化活動の推進を図ることができた。さらに、第32回全国豊かな海づくり大会において本島内の3農林高等学校の生徒が会場緑化に取り組んだ。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
全島みどりと花いっぱい運動事業	10,000	・沖縄県全島緑化県民運動推進会議、地域推進リーダー会議 ・企業との協働による花の名所づくり ・花のゆりかごプロジェクト ・うまんちゅ協働花と緑の美ら島づくり 【県単等】	—

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>「一島一森」で花と緑の美ら島づくりをスローガンに、平成20年度から県民一体となった緑化活動(主に植樹)に取り組んでいる。緑化事業は、長期的な取り組みが必要であることから、植樹だけでなく、育樹活動の推進、企業等による緑化活動の意識の高揚を図る等、今後も継続的な事業実施が必要である。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
-	-	-	-	-	-
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
県民による緑化活動件数	53件 (22年)	55件 (23年)	68件 (24年)	↗	—
沖縄県植樹祭 参加者数	豊見城市 約700名 (22年)	大宜味村 約500名 (23年)	与那原町 約600名 (24年)	→	全国植樹祭 約12600名 (24年)
状況説明	<p>沖縄県植樹祭は、県土緑化の重要性を普及啓発するため、緑化推進運動の中心行事として、昭和26年から毎年開催しています。植樹祭は、式典と参加者全員による苗木の植樹作業を行っています。 主な参加者／県・市町村議会議員、教育委員会、職員、開催地元の小・中学校、商工会、自治会、企業、町民、その他関係団体</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<p>本事業については、平成25年度までの事業であるため長期的かつ継続的な取り組みが見込めないが、自主活動による学校緑化及び地域緑化と併せ、地域住民の交流促進や地域振興に役立っている等、県民からの継続の要望が強い。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>全島的な民間主導型の緑化活動を喚起し、県民に潤いと安らぎのある生活を提供するだけでなく、将来的に種苗生産者への経済効果、観光振興を下支えする環境づくりが必要である。</p>

4 取組の改善案(Action)

<p>本事業については、長期的な取組を行う必要があるため、学校や地域、企業等が自主的な緑化活動に取り組めるよう民間コンサルタントを活用した緑化人材育成等を推進し、事業実施後の継続的かつ全島的な緑化活動を推進する。</p>
--